

まちがえた！

新冠町 小泉未希（十一歳）

今年、私は初めてカボチャの栽培を体験しました。家では以前、農協にカボチャを出荷していたこともあって、お父さんから育て方を教えてもらいながらやりました。

種を袋から出すとき「えびす」と「ジヤイアント」と「きちんと分けたはずでしたが、大きくなって実がつくまで、苗の品種をずっとまちがえたまま育てていたことに気がつきませんでした。

今年の夏は暑かったり雨が多かったです、思うようにカボチャ畑には入れませんでした。発芽（種まき）からの様子を夏休みの自由研究にまとめて発表しました。

新聞に載っているほど大きいカボチャにはなりませんでしたが、

今でも（九月三十日）つるや葉は
青々としていて、三つ育ったうち
一番大きなカボチャは今でも大き
くなっているような感じですよ。

来年もぜひ種を送ってもらって
もっと大きく育てて、ヘルパー
休暇を取ってコンテストに行っ
てみたいです。

終り



決意？

白老町 今村繁子

秋になるとスーパーの前に置かれているジャンボかぼちやに驚き
今春、種を求め、大きな夢を抱き挑戦しました。

野菜畑の片隅に植え付けました。発芽から大きな葉で、一つの山
に二本植えて、そのうちの大きな方を残して一本にしました。

にぎりこぶし大のカボチャが付いたが『黄色』なので病気と思い
取り捨ててしまいました。以後一つもかぼちやは付かないで、葉つ
ぱは大きく広げ、つるは太く伸ばし、白老のエネルギーをいっぱい
吸収しています。その後、畑より道路に伸びてきたので、私の住む
柏洋団地表面道路沿いに伸ばしています。

今年のカボチャが採れなくても、つるが枯れるまで大事に育てよ
うと思っています。

(写真なし)

どんどん広がる シンデレラの夢物語

恵庭市 佐藤 勉（五十歳）

拝啓 めつきり日脚が短くなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。
うか。

先般はカボチャの種をお送りいただきありがとうございます。
春に種をまき、丹念に育てたところ、大小合わせて五つが育ち、
中には七十キロにもなるものもあって大変驚きました。

そんな折、地元の千歳民報という新聞社より記事として掲載した
い旨を聞かされ、私も快く了承しました。

又、それが契機となつて、恵庭の市役所からもお電話をいただき、
市役所のロビーに展示したいとの申し出があり、こちらにも快く了承
しました。

そして、噂が噂を呼び、私の住んでいる柏木町の御祭りにも『ジヤンボカボチャ重量当てクイズ』として使っていただけ、地元の人々にも大変評判が良く、私に来年も是非ジヤンボカボチャを育ててほしいという声が多々聞かれました。

残ったカボチャは私の経営している理髪店のピーアールとして店内に飾っております。来店するお客様にも好評で、カボチャが皆様にこれほどまでに喜ばれるとは思ひもやらぬ結果となりました。まさに夢物語です。

ただ何気なく育てたカボチャが町の人々に愛され、私も感慨ひとしおであります。

今年は、私にとって最高の一年でありました。ありがとうございました。

来年も是非育ててみようと思えますので、お手数をおかけします。

がカボチャの種をお送り下さいますようお願い申し上げます。
サロマかぼちゃ倶楽部の皆様のご健康を、そして、サロマかぼちゃ倶楽部の末永いご発展をお祈り申し上げます。

敬具



70キロの巨大カボチャ

恵庭の佐藤勉さんの家庭菜園で実る

丹精の成果、まだまだ成長

ジャンボなカボチャ色づく。恵庭市柏木五四九の理容店経営、佐藤勉さん(左)の家庭菜園で米国原産のカボチャ「アトランティック・ジャイアント」が美しい濃いオレンジ色の実をつけた。直径は七十センチ、重さも七十キログラム前後(推定)で、葉の大きさも四畳を超すジャンボサイズ。霜が降りる直前まで成長を続けるといふ。こんなには大きくなるという。

「早起きしての土いじりが何より楽しい」と話す佐藤さんは、自宅近くの畑で家庭菜園に取り組んで十年になる。月曜から土曜まで午前五時に起床。二カ所の畑で野菜や山菜づくりに精を出している。

野菜づくりは次第にエスカレート。今では「一人の作らないものをやりたい」と白いピーマンや緑のナスの栽培にも取り組んでいる。また、魚かすや鶏かん、油かす、骨粉、米ヌカなどを混ぜ合わせた有機肥料づくりを手掛け、専用の熟成小屋を建てる農家顔負けの本格派だ。畑には、自慢の「山菜園」や八百本のホダ木を抱えるシタケ栽培小屋も。

今春、道内でも有数のカボチャ特産地・網走管内佐呂間町のサロマかぼちゃ俱樂部から「アトランティック・ジャイアント」の種を取り寄せた。四月初旬に種をまき、六月下旬に人工授粉した。一株に一個の実がなるように花を摘み、追肥を繰り返して、丹精込めて育ててきた。

一株の葉の長さは二十センチ。まるい実は、一人では抱えられないほどの重さ。

これから、さらに大きくなるという。「予想以上です」と目を細める佐藤さん。もともと飼料用の品種のため、一般には鑑賞用として利用されているという。

実がなったジャンボカボチャは三個。佐藤さんは希望があれば一般PR向けに提供したい」と話している。



佐藤さんが丹精込めて育てたジャンボカボチャ

初めての作品

札幌市 和泉綾子（六十五歳）

次女が五月頃のある日「お母さんめずらしい物を持ってきたよ。ジャンボカボチャの種植えてみない。」と。「えっ、こんな狭い土地に……まあいいか、植えてみてもいいよ。」と引き受けてはみたものの、今あいている土地は二坪ほど。種をまいて育てるのが大好きな私は、早速実行委員の阿部様よりつめて頂いた種と栽培方法にざつと目を通して植えました。

私の場合はあくまで我流です。地植えにして三角のビニールの帽子をつけて植えました。天気が良くて発育が抜群なので毎日が楽しみでした。帽子をそつとよけて水をやったり、苗の廻りを手ぐわでおこしたり。その内に帽子をはずしたら、そのまままっすぐ上へ上

へと太い茎が伸びたのにはびつくりしました。

月日が経ち五節目に一個、八節目に一個実が付き、二本の苗に二個ずつ、計四個のこし、これも我流で八節目の先をとめました。お碗ぐらいの大きさが一週間ぐらいでみるみるサッカーボールぐらいになりましたが、四個のうち三個がそのうちにアウツ。頼みの一個ですが風が吹けば葉が直径五十センチもあるので風当たりが強くすぐに傾きます。葉一本一本を細い木でしばったり、風で葉の付け根が裂けてきたのでガムテープで補強し、大事に大事に育てました。

そのジャンボも昨日で葉が全部枯れてなくなりました。たのみの一個はオレンジ色をしてデーンと茶の間の直前で花に囲まれていばつています。カボチャの上を小さいゴマ粒のようなア리가運動会をしています。

そのカボチャも最近茎が弱く、水が出てきて、毎日ウエスでふ

いて日光に当てていますが、もう採りごろなのか又は寿命が来たのか気がかりなこの頃です。

八月二十八日

追伸

手紙を書いた次の日、
思いきってカボチャ
を切り取りました。
ミニ菜園での初めての
作品です。

